

●小野妹子

今から1400年ほど前の607年に、聖徳太子の命を受けて、遣隋使として、船で難波津から隋の国へわたる。学問をする数十名の僧を連れていたと、隋の歴史書に書かれている。608年に帰国。その後、国博士になるなど、国の政治の進め方で活躍した。男性。



4 大阪港の昔と今

なおとさんたちは、大阪港の歴史を調べるために、大阪市歌にもでてくる古代の難波津について、港湾局の人から、お話を聞くことになりました。

〔1〕 遠い昔の大阪港 ～難波津～

ずっと昔、今の大阪市のあたりは「難波」と呼ばれ、大阪港に流れこむ古い淀川や古い大和川の河口には、たくさんの大小の島と、多くの津（港のこと）がありました。その後、上流から流れてくるたくさんの土や砂がたまって、長い年月をかけて、今の大阪市の土地ができました。難波津の確かな位置は、まだわかっていません。おもしろい研究になりそうです。みなさん、大いに研究して、難波津の確かな位置を見つけてみませんか。

●遣隋使

聖徳太子（572～622年）が、倭国（日本という国名はまだなかった）から、隋（今の中国のあたりの大きな国）に送った外交をする使節の人のこと。隋の進んだ制度や学問・文化・技術を持ち帰って、日本の発展につくした。

今からおよそ1400年前の607年（推古15年）に、小野妹子は、聖徳太子の国書（手紙）をたずさえ、遣隋使として船で難波津を出て瀬戸内海を西へ進み、玄界灘をこえて隋におかたと伝えられています。

難波津は、このあとも外国との人の行き来や、日本が外国の進んだ文化や技術を取り入れる“海の玄関口”の国際港として、たいせつな働きをしてきま

●遣隋船

遣隋使を乗せた長さ40～50mの船のこと。船は600年～618年の18年間に5回以上送られたと伝えられる。季節風を利用してあれた海を行く命がけの航海であった。

した。

